

三到図書館 ニユース

- 📖 濫読、精読
- 📖 図書館へ行こう！
- 📖 きみは学生時代にどれだけ本が読めるか？
- 📖 図書館活用術



OBIRIN UNIVERSITY LIBRARY

濫読、精読

健康福祉学群長 茂木俊彦



私は、濫読の傾向がある。たとえば昨日から読み始めた本は、フランス18世紀の百科全書派ディドロの『絵画について』（岩波文庫）だが、同じ著者に『盲人書簡』があり、こちらのほうは私の専門からして示唆的だったということがこれを手に取ったきっかけであるにすぎない。絵画や美学について格別の関心、知識があるからではないのである。本によって途中でやめてしまうことも通読することもある。専門ではなく趣味としての読書だという気楽さがあるのがよい。また浅い読み方で許されるだろうと甘く考えたりもする。読後の充実感があることもないことも、すぐに役立つことも役立たないこともある。何年もたって「そういえば という本に××ということが書いてあったな」と思い出してうれしくなり仕事に使うこともある。

他方、精読とはどう読むことをいうのか、いまだによく分からない。専門書をどう読むかについて学生時代に教えられたことを書いてみたい。私の学んだ大学では2年生の後半から専門の学習の一部が組み込まれていた。その中のひとつに人格心理学の故依田新先生のゼミがあった。このゼミは原書講読でテキストはイギリスの心理学者アイゼンクの代表作だった。専門書や専門論文の翻訳は専門に関する知識が増え、術語も多く知るとなるようになると比較的簡単なのだが、それまではなじみにくく時間もかかる。

私はレポート準備にかなり難儀した。徹夜に近い作業をしてゼミで報告すると、先生は「君が訳した部分では、アイゼンクは要するに何を言いたいのだと思うか」と質問された。報告を終えてホッとしたところだったので虚を突かれた感があったが、私は何とかまとめてそれに答えた。すると

先生は重ねて「君のまとめには君の意見が混じっているということはないか」と問いかけてきた。これには参った。「あとでもう1回考えてアイゼンクが言わんとしたことを正確につかみなおしてみるといい」というコメントをいただいた。その日もその後も先生はそれについて触れなかったし、私もその意味が十分にはつかめなかった。何年か経って経済学者内田義彦氏の岩波新書 - であつたと思うが今はそれを確かめるゆとりがない - を読んだ。そこで以下のような趣旨の文章に接して、依田先生の言いたかったことが少し分かったような気になった。

本を読み始めて著者に対する批判や意見が出てきたとしても、それはひとまず横において、著者が言いたいことを著者の論の運び方に忠実にしたがって読み進み最後まで行くべきである。これを徹底すべきである。そうすれば進むにつれてこの著者なら次にはこう言うであろうということも推測できるようになる。2度目、3度目に読むときに自分の批判や意見をもって本（著者）にぶつかるなり、交流するのがよい。こうした努力をとおして本や著者と格闘することが必要なのだ。

分かってはいても、現実にはこのような読み方はなかなか実行できない。私の場合、専門書でも拾い読みがしばしばで、通読しても1回限りというのが普通になってしまった。著者にはまことに失礼な話だし、読書という活動を通じて、私個人はもとより、ちょっと大げさかもしれないが人類全体の、知的財産を豊富化していく上でも損失だと思ふ。もしかすると、これは濫読の場合もあてはまることなのかもしれない。ある種の罪の意識を禁じえないこのごろである。

図書館へ行こう！

国際学部 大 中 真

東京永田町にある国立国会図書館には、1階ホールに「真理がわれらを自由にする」との言葉が刻まれており、ヨハネによる福音書8章32節が出典と言われている。この言葉には、戦前の軍国主義の時代、真理が国民に伝えられなかったことが日本を破滅的な戦争に導き、崩壊させたことへの戒めが込められているという。第二次世界大戦後、日本国家が新たに生まれ変わり、新しく国民に開かれた国立の図書館が開設された時、この新約聖書の一節が理念として掲げられたのである。

このような書き出しを見ると、読者は何か図書館を、堅苦しい、厳めしいもののように感じるかもしれない。しかし、図書館は全ての人に開かれており、またそうあるべきである。桜美林大学にも図書館（三到図書館）があり、多くの学生や教職員に利用されている。図書館に親しんでもらおうという試みの一つが、今回取り上げる図書館ガイダンスである。

私は国際学部の教員であるが、国際では1年生を対象にした基礎演習科目がある。いわゆる基礎ゼミであるが、桜美林大学新生の最初の春学期、少人数のゼミナール形式で、読む（文献講読）、話す（プレゼンテーション）、書く（レポート提出）などの基本的能力を訓練することが目標とされている。この基礎ゼミに組み込まれているのが、図書館ガイダンスである。

図書館職員の協力を得て、基礎ゼミの1回を使い、三到図書館での本の探し方、借り方など、利



2004年に在外研究で滞在したオックスフォード大学にて

用方法を学ぶ。国際学部の1年生は、全員が必ず新学期のうちにこのガイダンスに出席することになっており、非常にいい試みだと思う。大中基礎ゼミでも、毎年度早い時期にガイダンスを実施しており、図書館の利用方法を身につけてもらった上で、研究発表を行っている。教室を離れての体験学習でもあるので、毎年学生には好評である。

残念なことに、1年生の秋学期と2年生では、学生の図書館利用率が下がるように見受けられる。しかし、国際では3年生は専攻演習（ゼミ）が必修になっており、ゼミ論を提出しなければならず、4年生は最低20,000字以上の卒業論文を書かないと卒業できないため、再び図書館に向かうようである。そしてこの時、入学時に受けた図書館ガイダンスの重要さが分かった、という声を学生から聞くことが多い。

大学生生活は、長いようで短く、短いようで長い。勉強だけするような毎日は若者として非常に不健康であり、アルバイトでも、恋愛でも、サークル活動でも、何か充実感のある人生経験をして欲しい。論文や授業のレポートの締め切りに追われ、図書館を利用することもその一つであり、図書館の思い出がどれくらい多いかが、その学生の勉強面での充実度と一致しているように思われる。大学図書館をもっと利用しよう。

図書館ガイダンス

2005年度報告 & 2006年度ご案内

大中先生から紹介があった図書館ガイダンスは、近年実施回数が増加傾向にあります。昨年度の実績は以下をご覧ください。この図書館ガイダンスでは、図書館の利用方法や資料の検索方法など、図書館職員が説明をおこなっています。今年も国際学部、ビジネスマネジメント学群、言語コミュニケーション学科から申込みがあり、1年生の基礎ゼミや必修科目の授業の中で開催される予定です。

個別の授業での申込みも受付けていますので、ぜひご活用ください。また、個人で参加できるガイダンスも随時実施しています。お気軽にお申込みください。

【お問い合わせ】 図書館情報サービス係（内線4123） 042-797-9992（直通）

2005年度 実施回数：全69回（76クラス） 延べ参加人数：970名

学 部	国際	経済	BM	言コミ	英文	短大	大学院	留学生	合計
実施クラス	24	9	14	11	3	1	1	13	76
参加人数	289	134	224	98	43	4	35	143	970

故人曰く「読書」とは「書ヲ読ム」ことなり。「書」は学問の書物なり。
よって「読書」とはすなわち「学問ヲスル」ことがその本義なりと。

とはいえ、読書はすべて学問である、といえびみなさんはきっと息苦しさを覚えることでしょう。本など読まなくとも生きてゆける。確かにそうかもしれません。ただし何かについて深く考えることもなく、気の利いた言葉や言い回しも身につかず、ただの記号として文字を眺めるだけです。

人が一生に読める本の量など多寡が知れています。もし仮に1日1冊読んだとしても1年で365冊。読書に費やせる気力と体力が盛んな時期を仮に50年としてもせいぜい18000冊。そのあいだにも仕事や勉強、恋もすればケンカもするし、雑用もこなさなくてはなりません。本など読んでいる余裕のないときだっていくらもあるでしょう。そう考えると、一生に読める読書量はみるみる減ってゆきます。量を読めばいい、というものでもないでしょうが、それでも貧弱な読書体験から生み出される教養は、そうそう高いものではないといえるでしょう(かく言う私たちもたいした教養はありません・・・)。巷にあふれる出版物の洪水の中から面白い本を手にする機会は、自分で見つけ出すしかないのです。情報化社会とは、ある意味で「必要な情報を的確に手に入れること」が重要な時代だ、といえるでしょう。

きみは学生時代にどれだけ本が読めるか？

桜美林大学図書館

読書運動プロジェクトへの招待



ある日の読書会風景

人はコミュニケーションの手段として言葉を用います。外国語の達人はみなコミュニケーションの達人、言葉の達人です。薬ではありませんが、読書を通じて培われるもっとも重要な効用は「想像力を養う」ことではないでしょうか。現代のような身近に異文化が存在し、さまざまな人たちとのコミュニケーションが重要視される世界では、想像力こそが生きてゆくための力強い味方になるのです。政府のいうことは真実だろうか、学者や専門家のいうことは正しいのだろうか、マスコミの報道は実は嘘かもしれない。猜疑心ばかり肥大してもよくありませんが、何に対しても素直というのもどうでしょうか。

個の確立、というとおおげさですが、自分の価値観を創りあげることと、他者の価値観に可能な限り耳を傾けること。そしてそのための「想像力」と「コミュニケーション能力」はますます重要になってゆくでしょう。

今年、図書館では教職員の協力を得て「桜美林大学図書館読書運動プロジェクト」をスタートさせることになりました。このプロジェクトが、これからの大学生活で出会うであろう、きみたちのまだ見ぬ友人、私たち教員、職員の「想像力」と「コミュニケーション能力」を養う機会になればと、考えています。

読書量ならちょっと人には負けたい自信がある / 読書を通じて友だちを作りたい / 本を通じて友だちと話したい / 面白い本があるからぜひみんなに薦めたい / 知識を深めるきっかけにしたい / まだ見ぬ広い世界を知りたい・・・図書館はそんなきみたちの参加を待っています。(図書館 読書運動プロジェクト 佐々木)

桜美林大学図書館読書運動プロジェクトではこんな企画を準備しています！

戦争文学ベスト30
読書マラソン

完走者には記念品を贈呈

Obirin Lib Cinema

戦争をテーマとする映画・ドキュメンタリーの上映会

読書会
ネットワーク

有志で読書会を開催

Obirin Lib Café

戦争と平和、読書に関する講演会や座談会など

興味のある方は図書館、または dokusho1@obirin.ac.jp までお気軽にお問い合わせください！

レファレンスカウンター (本館3F指定図書コーナー前)

「文献の探し方がわからない」、「求める資料が見つからない」、「ある事柄やデータについて知りたい」といったことで困ったことはありませんか？ 図書館にはこのような相談を受け付ける窓口として“レファレンスカウンター”があります。職員が利用者のみなさんの相談にのり、必要な資料にたどりつけるように、また図書館を有効に活用できるようにお手伝いします。お気軽にレファレンスカウンターをご利用ください！

活用術その2

図書館オンラインサービス

・予約

「借りたい本が貸出中…」というときは、自分で予約をかけてみましょう！図書館の資料は図書館HPの“OPAC(図書館蔵書検索)”から検索することができます。貸出中のときは返却予定日が(目録情報画面の所蔵の状況欄に)表示されます。また、予約ボタンが表示されますので、予約ボタンをクリックして、IDとパスワードを入力して予約をかけてください。

・利用状況の確認

「いま借りている本の返却期限はいつだったかな?」「明日が返却期限だけでももう少し借りていたいな」というときはありませんか?このようなとき、図書館に来なくても図書館HPの“本人利用状況確認”から自分の貸出状況を確認したり、図書の貸出期限を1回に限って延長することができます。

・文献複写申込

「この雑誌に掲載されている論文を読みたいけど桜美林大学図書館には無いなあ」というときは、所蔵する大学図書館より該当部分のコピーを取り寄せることができます。図書館HPの“文献複写申込”から注意事項をよく読んで申し込んでください。

図書館オンラインサービスをご利用の際は、IDとパスワードでの認証が必要です。IDは学籍番号、パスワードは桜美林大学のE-mailやe-Campusと共通です。

活用術その3

メール通知

次のようなとき、E-Mailでお知らせをしています。定期的にメールを確認しましょう！

- 「予約した資料が返却されました」
- 「購入希望を申し込んだ資料が到着しました」
- 「文献複写を申し込んだ資料が到着しました」
- 「借りている資料の返却が遅れています」

メールは桜美林大学ドメインのメールアドレス(・・・@obirin.ac.jp)に送られます。

お知らせ (2006年4月より変更されます)

開館時間の変更について

- ・本館の朝の開館時間が30分早くなりました！
- ・土曜日も夜21:00まで開館になります。
- ・情報メディア室が土曜日も開館します。

	平 日	土 曜 日
本 館	8 : 3 0 ~ 2 1 : 0 0	
情報メディア室	9 : 0 0 ~ 1 7 : 4 5	9 : 0 0 ~ 1 4 : 0 0

貸出規定の変更について

- ・学部生の図書貸出冊数が増えました！

	冊 数	期 間
学部・学群1~3年生	10冊	2週間
卒業年次・大学院生	15冊	1ヶ月

未製本雑誌は5冊1週間、視聴覚資料は3点1週間です。



図書館フロア案内

〈雑誌・新聞（逐次刊行物）エリア〉

Floor Guide 1F&2F

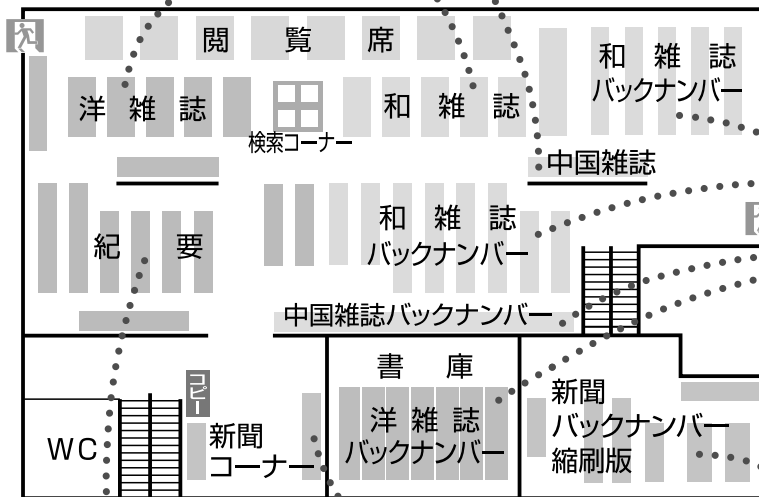
2006年4月より、雑誌、新聞、年鑑、白書等の逐次刊行物は、本館の1階と2階の一部に移動しました。新しい配置図は、こちらようになります。

3階～6階の和書、洋書、中国書、大型本等は、2005年夏の移動作業で配架場所を変更しましたので、今回は変更ありません。

本館

雑誌コーナー：和雑誌・洋雑誌・中国雑誌に分類されます。いずれも種類が豊富で、学術的なものから趣味・娯楽に関するものまでジャンルも幅広く取りそろえています。それぞれタイトルのアルファベット順に並んでいます。書架の表に出ているものが最新号で、比較的新しいバックナンバーは扉の中にあります。
※最新号の貸出はできません。

1F



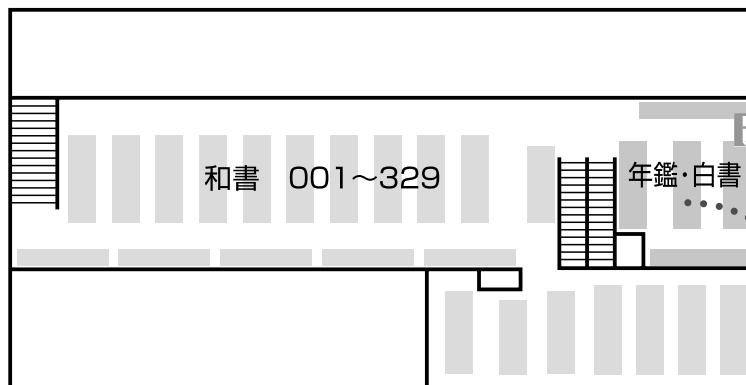
雑誌のバックナンバー（1年以上前のもの）を保存しています。

日本の新聞は3ヶ月間、外国の新聞は1年間、バックナンバーを保存しています。縮刷版は数十年前のものから所蔵しています。

各大学・研究所等で定期的に出版される研究論文集です。大学名のアルファベット順に並んでいます。

朝日・毎日・読売・日経など日本の主要な新聞、アメリカ・中国などの外国の新聞があります。最新版をこちらに置いています。

2F



ある分野の1年間の出来事・各種統計などを記録・解説した年鑑、政府の公式調査報告書である白書などがあります。

図書館統合・移転作業報告

2005年4月発行の図書館ニュース56号で『桜美林大学図書館のこれからについて』や、分館統合までのスケジュールをお知らせしておりましたが、このたび、ほぼ当初の計画通りに作業が終了いたしました。

新図書館建設までの間、多少窮屈になってしまう面もあり、利用者のみなさまにはご不便をおかけしますが、今まで本館と離れていた分館で所蔵していた雑誌や新聞等の逐次刊行物が本館と一緒に利用できるようになったメリットを、最大限活用していただければと思います。

雑誌や新聞、年鑑・白書等は、本館の1階と2階の一部に移動しました。新しいフロア案内（雑誌、新聞等の加わった1階、2階部分）は、裏面に掲載してありますのでご覧ください。

図書館では、この統合・移転作業にあわせて蔵書点検もおこないました。2月下旬から3月上旬までの1週間の最後の統合・移転作業は、大掛かりなものとなったため図書館を休館せざるを得ず、利用者のみなさまにはご迷惑をおかけしましたが、この期間を利用して、図書館の全ての蔵書の有無を点検する蔵書点検と、一部の老朽化していた閲覧机や椅子の更新等をおこないました。



1冊1冊、読み落としのないように作業していきます。



蔵書点検では、書架にあるすべての蔵書を読み取ります。

蔵書点検について

蔵書点検とは、図書館のものであり、また、みなさんにとっても貴重な財産である蔵書がなくなっていないかどうか点検・照合する作業です。

例えて言えば、商店やスーパーマーケットの「棚卸」のような作業で、図書館の本で紛失や不明になっている本がないか確認する作業です。

作業の様子は、写真のように読み取りスキャナー（ハンディ型のバーコードリーダー）を用いて、書架にある本を1冊1冊読み取っていき、蔵書のリストとつきあわせていくという地道な作業です。読み取り作業では、読み忘れや読み飛ばしに注意しておこないます。これらの作業によって、不明になってしまっている本が何冊あるか、また、実際の本とコンピュータに登録してあるデータに相違がないか、配架場所は正しいか、汚損・破損している本がないかといったことも確認します。データの修正や本の修理が必要なものが発見された際には、それらの修復作業をおこないます。不明になってしまっている本については、念入りに探し直し、それでも発見できない場合は、購入して補充する等の処理をおこないます。（みなさんが春休み中に借りている図書は、データ上でも貸出中となっているので、特に支障はありません。ご心配なく…）

桜美林大学図書館では、前回は1997年度の夏と春に、計約25万冊の蔵書点検をおこないました。この時は読み取り作業の後のリストとのつき合わせ・確認作業（不明本の調査等）に時間がかかりました。スキャナーの読み取り精度が若干不安定で、コンピュータへのデータ登録状況も現在ほどは整備されておらず、手間がかかって大変だったそうです。

最後に図書館からのお願いです。ご存知のとおり、図書館の本はみんなのもので、借りられたまま長期間返却されない本や、紛失してしまった本があると、次に読みたい人が借りられない・利用できないということになってしまいます。また、心ない利用者によって貸出手续をしないで持ち出されてしまった本は、OPACで検索した際には図書館に所蔵されているように表示されますが、「実際に書架に行ってみたら見当たらなかった」ということになってしまいます。その本を利用したい人も、「あるはずの本が見当たらないのですが、、、」とたずねられた図書館員も、困惑してしまいます。

みなさんには、これからも図書館の本を、自分の本や自分の大切なものと同じように、丁寧にルールを守って利用するようお願いいたします。

ルールを守ってね！

